キャリア・カウンセラー通信令和2年度 第4号 「学校推薦型選抜および総合型選抜入試に向けて、今から自宅で準備を進めよう」

みなさんこんにちは、進路指導部キャリア・カウンセラーの桜井です。今日は、学校推薦型選抜や総合型 選抜入試に向けて、今から自宅で準備を進めてすすめてもらいたくお話しします。

近年、社会のさまざまなしくみが、急速にかつ大きく変革しています。AI(人口知能)の登場やグローバル化(国や地域を超えたつながりが増えること)などがその代表的な例です。このような時代においては、さまざまな価値観を受け入れる多様性や、新たな価値を創造していく力が大切だと言われています。このような時代背景の中で教育においても、「学力の3要素」(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を育成することが重要で、小学校から高校まで一貫した理念の下で「学力の3要素」を確実に育成することが大切だと言われています。そのため大学入試でも、「学力の3要素」を踏まえ受験生を多面的・総合的に評価するという理念から、学校推薦型選抜(旧推薦入試)や総合型選抜(旧AO入試)が行われることになりました。各入試の概要については、本校「進路の手引き」を参考にしてください。

入試に向けた自宅での準備のお話をする前に、まずは各入試の試験内容および評価方法について確認します。学校推薦型選抜では、小論文など受験者自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法のほか、プレゼンテーション、口頭試問、教科・科目に関するテスト、実技テスト、資格・検定試験の成績、大学共通テストの結果など学力を確認する評価を必ず実施することが求められています。総合型選抜では、エントリーシートなどの受験生からの提出書類のほか、面接や小論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などについて、ある程度時間をかけて総合的に評価します。特に、「高い学習意欲」や「学びへの明確な目的意識」への評価が重要視されています。また、出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴だと思います。

ただし各大学の募集要項をみると、学校推薦型選抜であっても試験内容が総合型選抜に近いケース、またはその逆のケースが複数見受けられます。私立大学であれば、100大学で100通りの選抜方法があるといってもいいほどさまざまなパターンが見受けられます。そこでみなさんに最初に取り組んでもらいたいことは、この時期に志望校をある程度絞ること、その上で志望候補の大学がどのような入試を実施していているのか理解し、出願や入試当日までにどのような準備がどの程度必要か把握することです。

「選抜型」

国公立大学や難関大学に多いパターン。選考方法は、小論文やレポートを課したり、長文の志望理由書や自己推薦書などを課してその内容をもとに面接するなど、受験生の負担も大きい

「対話型」

私立大学に多いパターン。エント リーや正式出願を通して複数回の 面談・面接を行い、学力面より人 物評価や意欲、志望動機などを重 視する

「実技・体験型」

入試プログラムの中に、模擬授業やセミナー、実験などが含まれ、 その参加が出願条件となる。それ にともない、レポート・課題提出 などを行う

(表1) 拡大する学校推薦型選抜と総合型選抜/大学入試の基礎知識/河合塾 Kei-Net より

https://www.keinet.ne.jp/exam/basic/structure/recommend.html (2020/5/7 アクセス)

次に上の表(表1)を見てください。これは「河合塾Kei-Net」が総合型選抜の主なパターンを表にまと めたものです。学校推薦型選抜でもある程度このパターンが当てはまると思います。今回注目してほしいの は、「選抜型」および「対話型」のところです。例えば、「選抜型」の自己推薦書について「受験生の負担 が大きい」との表現がありますが、高校生活で経験したさまざまな取り組みの中で得た成果の説明や、自己 分析をして自分の長所や強みが何かを客観的に説明することなどを、相当な文字数で説明することを求めら れるケースが多く見受けられ、多くの受験生にとって悩む場面になるようです。また「選抜型」の志望理由 書や「対話型」の志望動機は、単に入学を希望する理由を説明するだけにとどまらず、入学後の研究計画や 大学卒業後のキャリアプランまでを含めた内容の記述もしくはプレゼンテーションを求められる場合が多 く、明確な目的意識と進学する学部・学科への十分な理解が不可欠になります。そして、これらの内容が 「学ぶ意欲」として高いウェートで評価されるようです。みなさんに今取り組んでもらいたいことは、比較 的時間のあるこの機会に、「自己推薦書」や「志望理由書」を練習のつもりで書いてもらいたいのです。も し可能であれば、実際に受験を考えている大学の書式に準じた形で取り組むのが理想ですが、難しいようで あれば、まずは箇条書きでもよいのでチャレンジしてもらいたいです。ただし心がけてほしいことは、各大 学が打ち出すアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)に基づいて書くことです。多くの生徒は、 自分が書きたいことを書き綴る傾向がありますが、総合型選抜や学校推薦型選抜で合否判定の基準の一つに なっているのは、このアドミッション・ポリシーです。簡単に説明すると、受験生の「自己推薦書」や「志 望理由書」の内容が、各大学のアドミッション・ポリシーに合致しているか評価しますので、ある程度これ を意識した内容にすることが求められます。詳しくは各大学のホームページに掲載していると思いますの で、ぜひ確認してみてください。自己推薦書や志望理由書を書く際には、本校「進路の手引き」や下記に紹 介している全国高等学校進路指導協議会提供のワークシート(資料)も活用してみてください。

次回は、eポートフォリオでおなじみの「振り返り」についてお話しようと思います。

(資料)全高進 全国高等学校進路指導協議会 新型コロナウイルス体校時の高校進路指導応援企画学校休校期間に「高校生のキャリアノート」 ワークシートを無料ダウンロード提供!!

http://www.zenkousin.net/htmls/careernote.html

(休校期間中のみダウンロードが可能)

